

プロジェクト報告 Project Reports

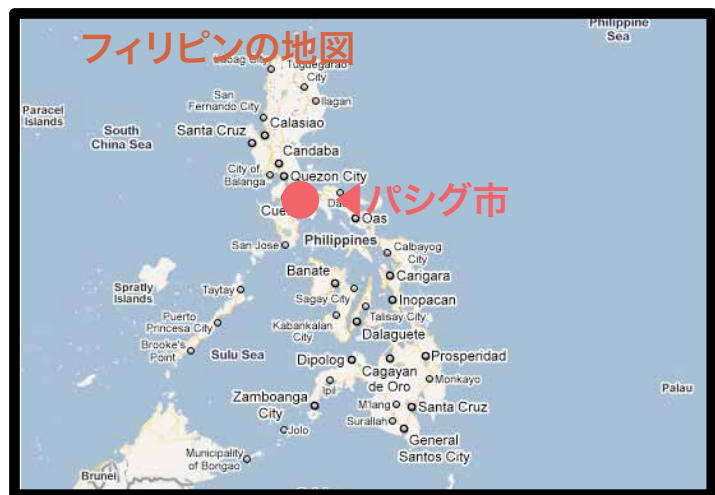
フィリピン 『水害被災者支援(初動調査)』

サポート: ジャパンプラットフォーム
2009年10月~11月

2009年9月26日、フィリピンのマニラ首都近郊を襲った台風16号(Katsuna)は28日までに140人以上の死者を出し、45万人が被災した。26日の降雨量は、24時間で410ミリだったという、そして水がひく間もなく、10月3日に台風17号(Parma)が追い打ちをかけ、死者は430人以上となってしまった。



洪水から1ヶ月経っても町は水没している
木製の橋は、地域ボランティアが建てたものである



家屋が消滅するなど多大な被害を受け、1ヶ月経った今でも物資や支援が得られない人々も少なくない。ICAは、支援が行き届いていない被災者に焦点をあて、特に障害者や女性、子供を対象に緊急支援と調査を行った。

調査は、カピトリ避難センターの被災者に対し支援のニーズ調査を実施し、必要物資・滞在者の状況を把握することができた。また、市長の要請をうけ、ピナブハタン地区をはじめとする6箇所の冠水地域の視察と聞き取り調査を行った。

そこでは6000世帯が浸水生活を送り生活物資を必要としていることがわかった。

ベンゲット州ラトリニダッド町の町長と職員、村のリーダー、小学校教師たちに調査を行った結果、複数の避難所で生活する110世帯は、支援が全く届いていないことも判明した。ニーズ調査に基づき、救援パック(水、米や缶詰などの食品類、下着、毛布、タイル)を配布した。避難所から帰還した被災者たちは、依然浸水地域で生活を続けるため、感染症などの危険と隣合わせの環境で生活している。北部においては、土砂崩れによる家屋や畑の崩壊被害が多く、今後の復興支援の対象ともなるだろう。



ICAの食糧配布の様子



6000名が列を作って並んだ



聞き取り調査を行う佐藤理事長



日本大使館が配布に参加



食糧支援を待つ長蛇の列



洪水から1ヶ月たっても水はひかない



船で移動する家族



支援物資を受け取った女性たち



子供の笑顔は人を元気づけてくれる



計6000世帯への配布を終了